

授業科目名	教育と倫理 A, B	担当形態	単独		
		開講学期	春・秋		
担当教員	平野 克典	単位	2	年次	1
教職免許					
科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等					

※教員免許状取得のための授業科目は、ブルーの項目についても記載があります。

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

道德教育の内容と観点と方法を理解、説明、実践できることを目標とする。

第一の目標は、内容に相当する道德（倫理）の基礎知識を世界の三大宗教や古今東西の倫理思想を比較検討することで習得する。

第二の目標は、習得した基礎知識を日本の道德教育が示す観点に即して再考・整理する。

第三の目標は、観点到即した内容を効果的に伝える指導方法を検討し、その方法を身につける。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

積極的な授業参加。

携帯端末使用禁止。

私語厳禁。

本授業では成績評価の判断材料となる複数回のレポートが課せられる。

### ＝授業の概要＝

上記第一の目標に関しては、仏教、キリスト教、イスラム教の教義に見られる行動の善悪の基準を概観する。また、中国思想と西洋哲学の倫理思想も概観する。

第二の目標に関しては、指定したテキストに基づきいかなる観点から道德教育がめざれているかを確認し、具体的な指導方法を考えていくなかで第三の目標に到達する。

### ＝授業計画＝

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 道德とはなにか
- 3回 倫理と宗教
- 4回 宗教とはなにか
- 5回 キリスト教にみる倫理観
- 6回 イスラム教にみる倫理観
- 7回 仏教にみる倫理観
- 8回 西洋思想にみる倫理観（1）古代ギリシャの思想
- 9回 西洋思想にみる倫理観（2）近代ヨーロッパの思想
- 10回 東洋思想にみる倫理観（1）儒教：孔子、孟子、荀子
- 11回 東洋思想にみる倫理観（2）道教：老子、荘子
- 12回 現代の倫理的課題：科学技術の発展に伴う問題
- 13回 現代の倫理的課題：国際化に伴う問題
- 14回 倫理教育の実践：自分自身と他の人とのかわりに関すること

15回 倫理教育の実践：自然や崇高なものと集団と社会との関わりに関すること

**=テキスト（必携）=**

『中学校学習指導要領解説、道徳編』、文部科学省、日本文教出版、2008年、143円、ISBN-10：4536590048。  
なお、上記テキストはPDFファイルで無料ダウンロードが可能である。

**=参考書・参考資料（必携）=**

適宜プリントを用意する。

**=成績評価の方法と評価の基準=**

定期試験（50%）とレポート（30%）と授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。

**=その他=**